

# 会社説明会資料

---

---

2010年2月26日



三光産業株式会社  
SANKO SANGYO CO.,LTD.

(証券コード:7922)

# 目次



- 会社概要 3～13
  - 4. プロフィール
  - 5. 当社の売上構成
  - 当社の製品紹介
  - 6. ①AV機器関連製品(DVDレコーダー)
  - 7. ②AV機器関連製品(デジカメ)
  - 8. ③AV機器関連製品(ビデオカメラ)
  - 9. ④OA機器関連製品(携帯電話)
  - 10. 生産拠点
  - 11. 当社の強み
  - 12. 業績推移
  - 13. 業種別売上高の推移
- 2010年3月期 第3四半期決算報告 14～17
  - 15. 第3四半期決算概要
  - 16. 1～3Qトピックスと通期計画について
  - 17. 四半期業績推移
  - 18. 四半期貸借対照表
- 今後の展開 19～24
  - 20. 事業環境
  - 21. タッチパネル関連ビジネスの拡大
  - 22. 新市場の開拓
  - 23. 中国展開の加速
  - 24. 中国展開の今後の施策
  - 25. 中期数値目標
  - 26. 株主還元について

# 会社概要

# プロフィール



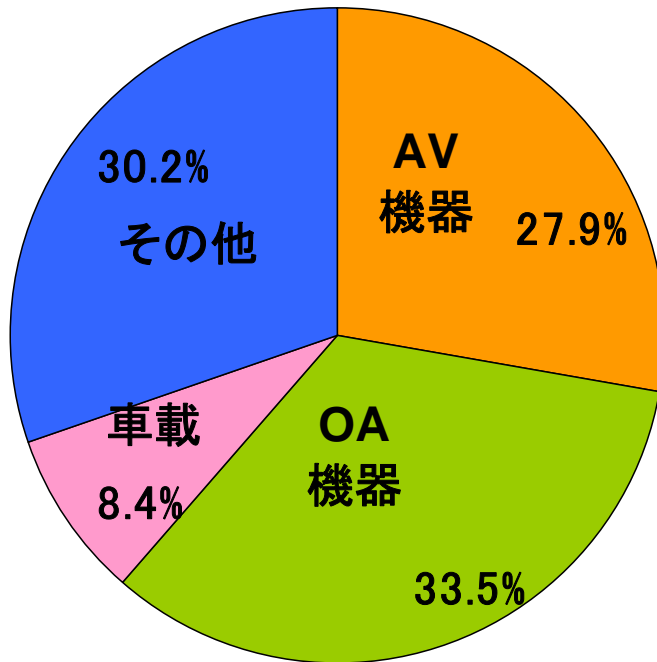
- 商号 三光産業株式会社
- 本社 東京都渋谷区神宮前3-42-6
- 代表者 代表取締役社長 山原 剛之
- 設立 1960年4月1日
- 事業内容 接着剤付ラベル・ステッカーの製造販売
- 資本金 18億5,075万円(2009年9月末)
- 関係会社 三光プリンティング株式会社  
サンコウサンギョウ(マレーシア)  
光華産業有限公司(香港)  
燦光電子(深圳、光華産業の子会社)
- 従業員数 243名(単体)、721名(連結)(2009年9月末)

# 当社の売上構成

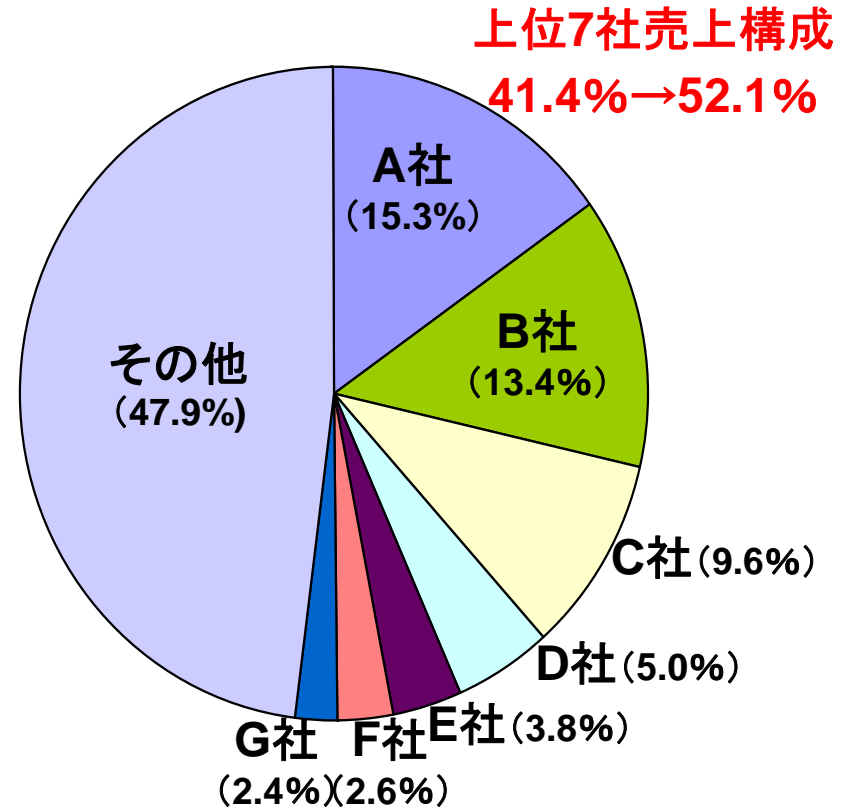


2009年3月期

業種別売上構成(連結)



顧客別売上構成(単独)



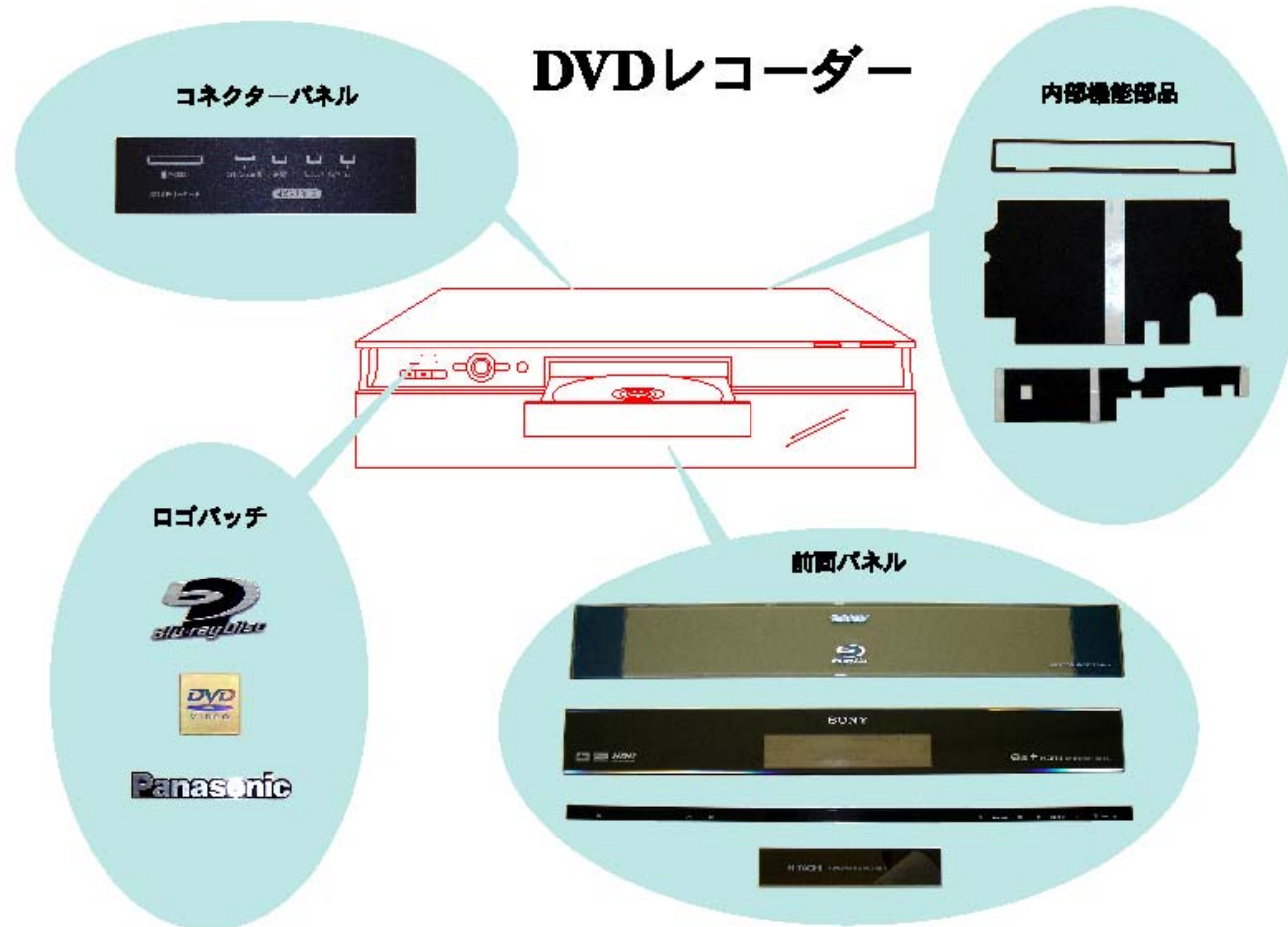
NEC TDK ソニー 大日本印刷 パナソニック 日立製作所  
富士ゼロックス 富士フイルム 三菱電機等  
約1000社(敬称略) (五十音順)

# 当社の製品の紹介①



AV機器製品

DVDレコーダー向け部品



# 当社の製品の紹介②



## デジタルカメラ向け部品

## AV機器製品



# 当社の製品の紹介③



## 携帯電話機向け部品

## OA機器製品

### 携帯電話

#### カメラマド/フラッシュパネル



#### バッテリー定格ラベル



#### 電磁波シールド



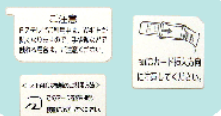
#### ロゴパッチ



#### サブLCDマド



#### 注意ラベル



#### 定格ラベル/水没ラベル

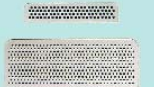


### 携帯電話

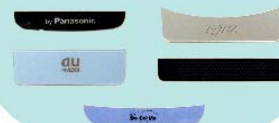
#### LCDアクリルパネル



#### スピーカーパネル



#### ロゴシート



#### モック用表示ラベル

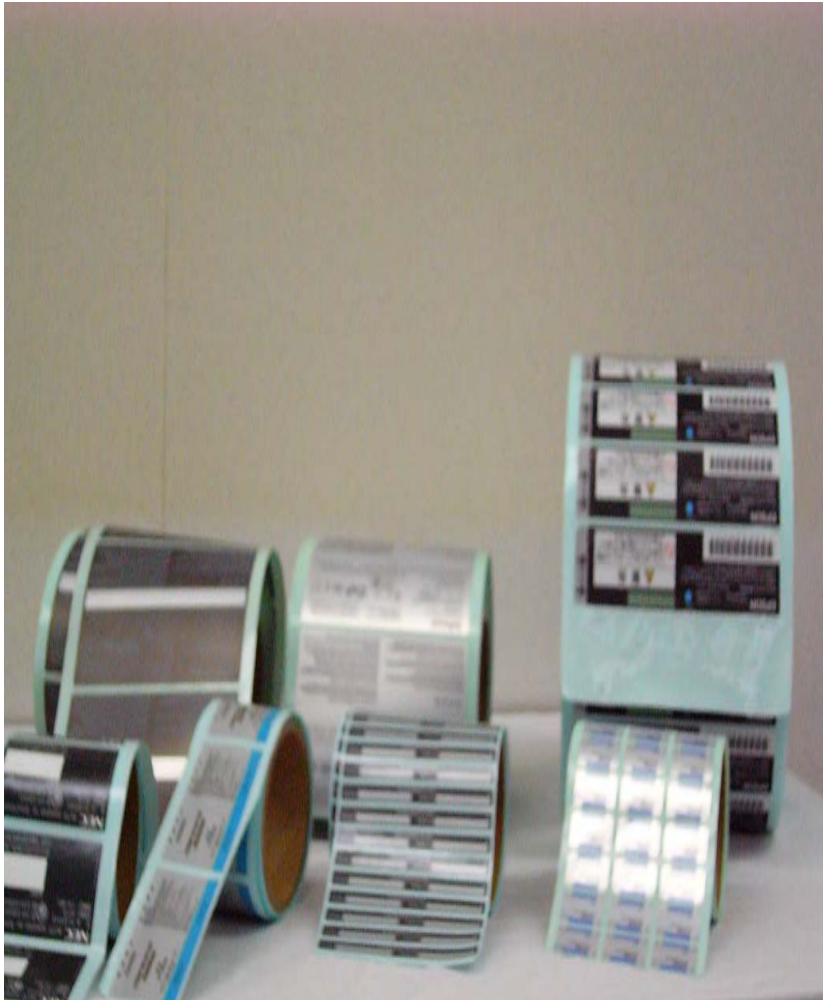




# 当社の製品の紹介④



## 電池シール・広告関連(その他)



# 生産拠点



2009年3月期 単位:百万円

	印刷方式	建物面積	生産実績
方南工場	シール主体	1,211 m <sup>2</sup>	323
千曲川工場	輪転機主体	2,406	481
川越工場	オフセット主体	4,578	981
大阪工場	シール・シルク主体	(948)	727
マレーシア	シール・シルク・輪転機主体	2,986	483
中国深圳	シール・シルク・輪転機主体	2,200	1,163
三光 プリンティング	シール主体	611	267

( )は賃借物件

# 当社の強み



1. 大手電機メーカーグループとの取引が中心
2. 顧客の様々な要望に対応しうる体制
  - ①. 幅広い印刷方式・加工技術を装備
  - ②. 外注を使うコーディネーション力
  - ③. 積極的な中国展開

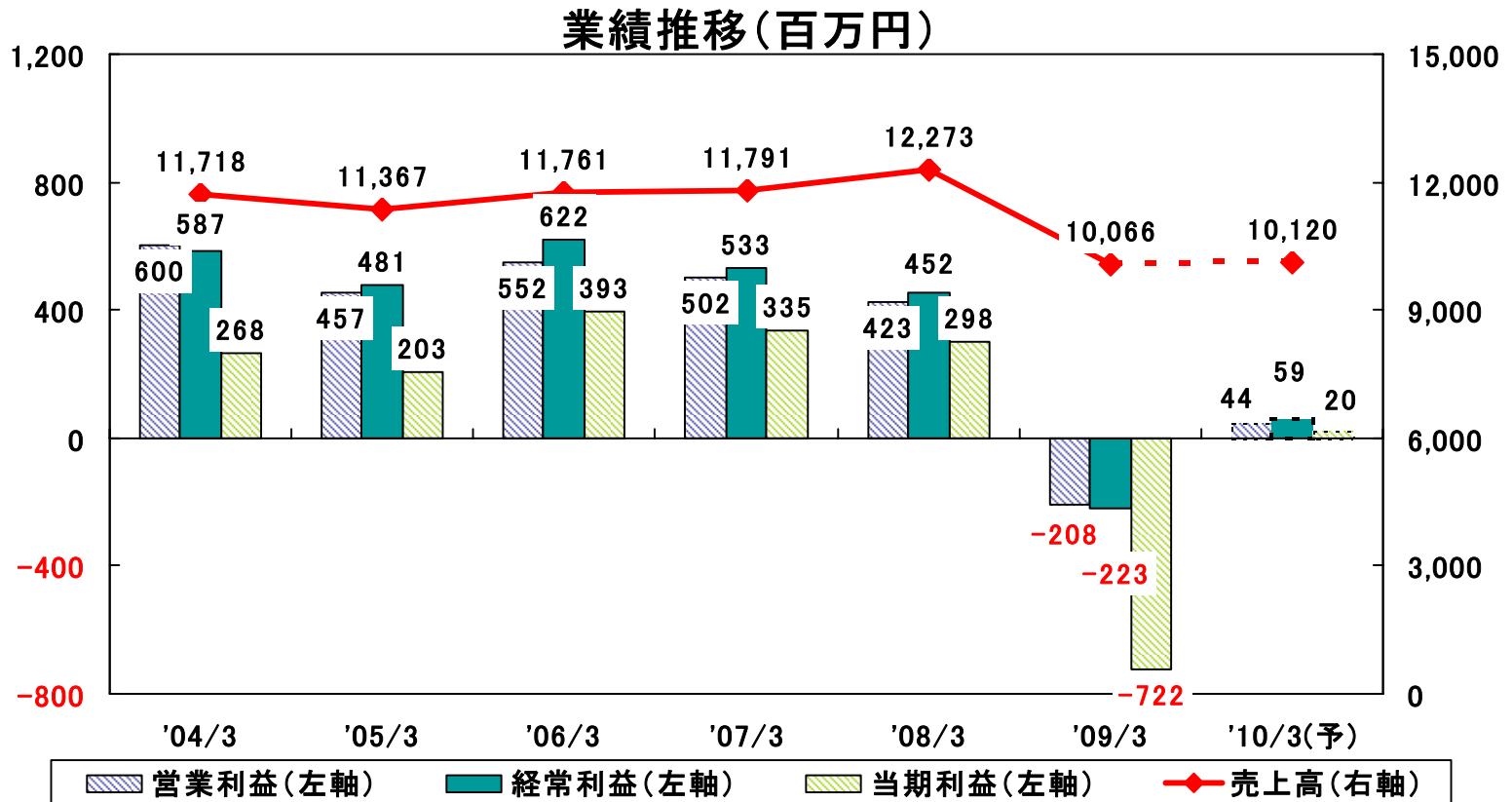
約4万種類の製品

1,000を超える取引社数

# 業績推移



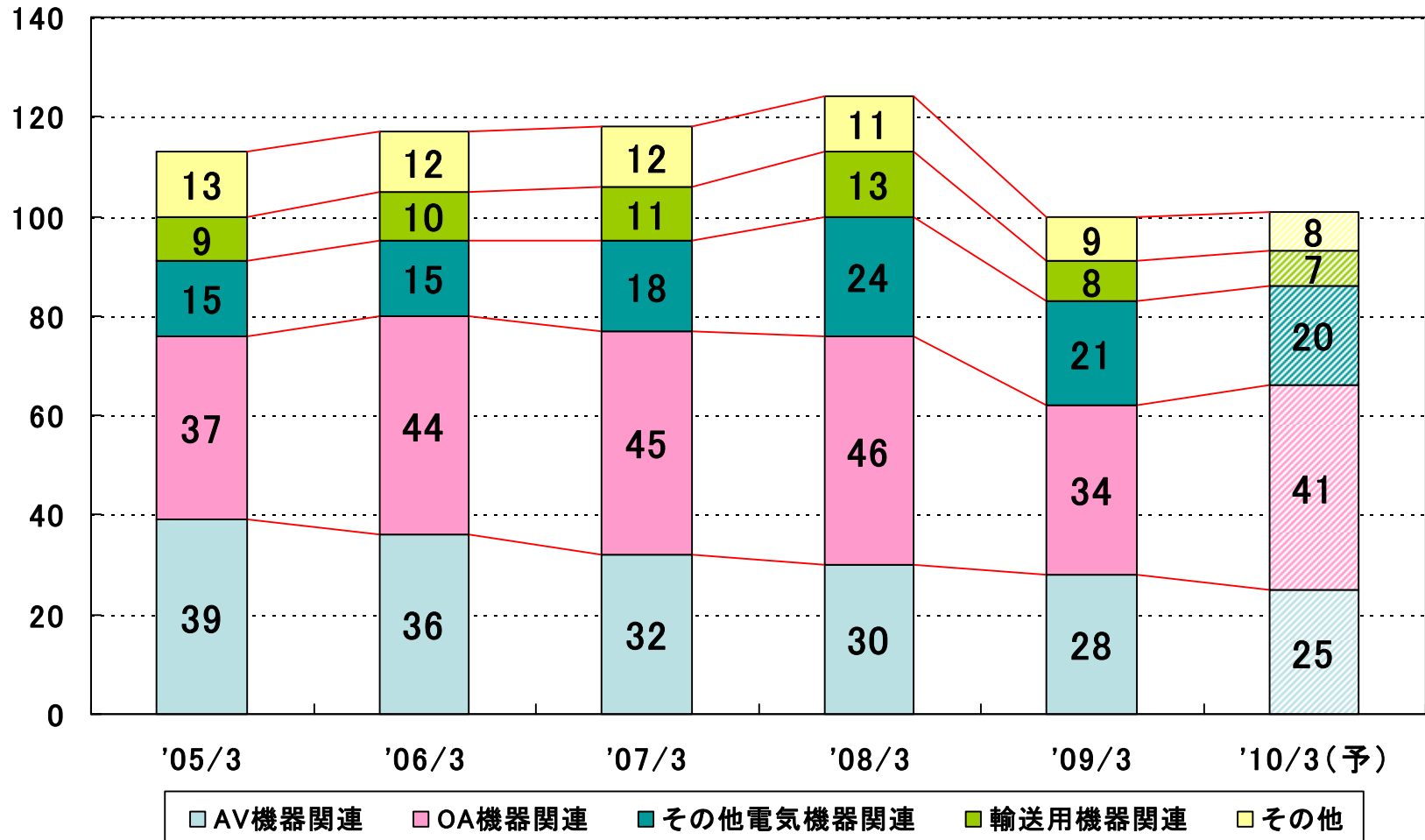
- 前09/3期は、世界的な景気後退を受け、主力ユーザーの大手家電メーカーが軒並み大幅減産。携帯電話メーカーの事業撤退もあって、05/3期以来の減収。コスト削減努力で追いつかず、また深圳の水害による損失や繰延税金資産の取崩しにより大幅な最終損失。
- 今10/3期は、引き続き厳しい事業環境だが、タッチパネル関連製品の受注増等により、下期以降回復に転じ、わずかながらも黒字転換を見込む。



# 業種別売上高の推移



単位：億円



2010年3月期  
第3四半期決算報告

# 第3四半期決算概要



単位:百万円, %

	09/3期 1~3Q累計		10/3期 1~3Q累計			10/3 通期計画		
	金額	構成比	金額	伸長率	構成比	金額	伸長率	構成比
売上高	8,278	100.0	6,986	▲15.6	100.0	10,120	0.5	100.0
AV機器	(2,321)	(28.0)	(1,847)	(▲20.4)	(26.4)	(2,500)	(▲11.1)	(24.7)
OA機器	(2,726)	(32.9)	(2,739)	(0.5)	(39.2)	(4,100)	(21.6)	(40.5)
その他電子機器関連	(1,798)	(21.7)	(1,409)	(▲21.6)	(20.2)	(2,000)	(▲5.9)	(19.8)
その他	(1,429)	(17.3)	(988)	(▲30.8)	(14.2)	(1,520)	(▲13.4)	(15.0)
売上総利益	1,515	18.3	1,216	(▲19.7)	17.4	1,850	7.7	18.3
営業利益	33	0.4	▲113	—	▲1.6	44	—	0.4
経常利益	35	0.4	▲98	—	▲1.4	59	—	0.6
(当期)純利益	▲329	▲4.0	▲105	—	▲1.5	20	—	0.2

# 1～3Qトピックスと通期計画について



## 1～3Q決算のポイント

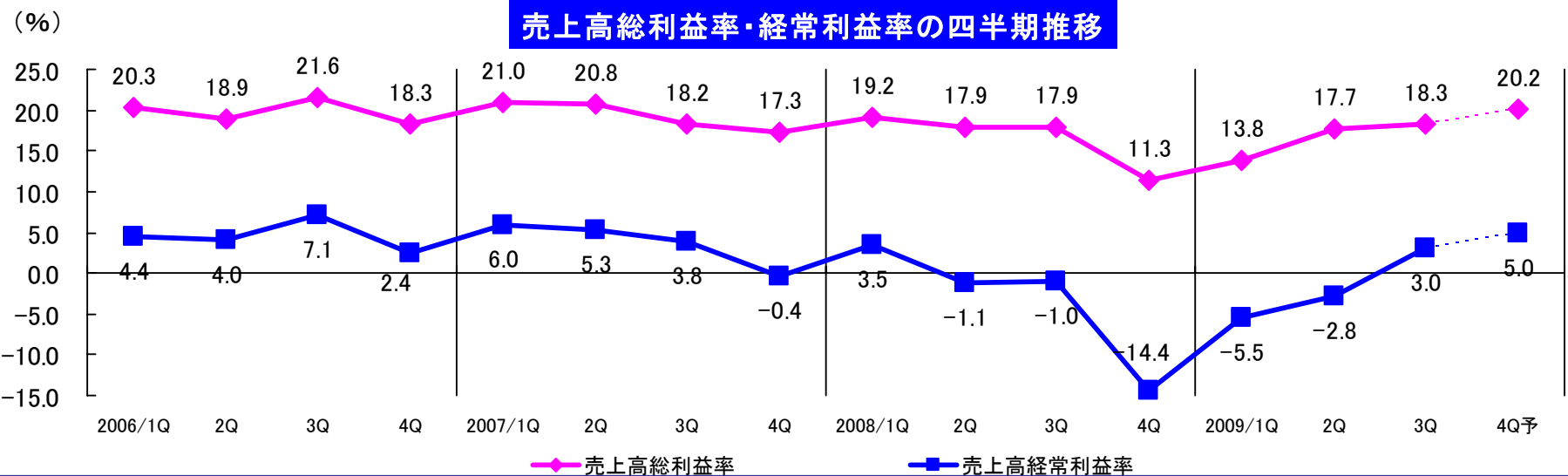
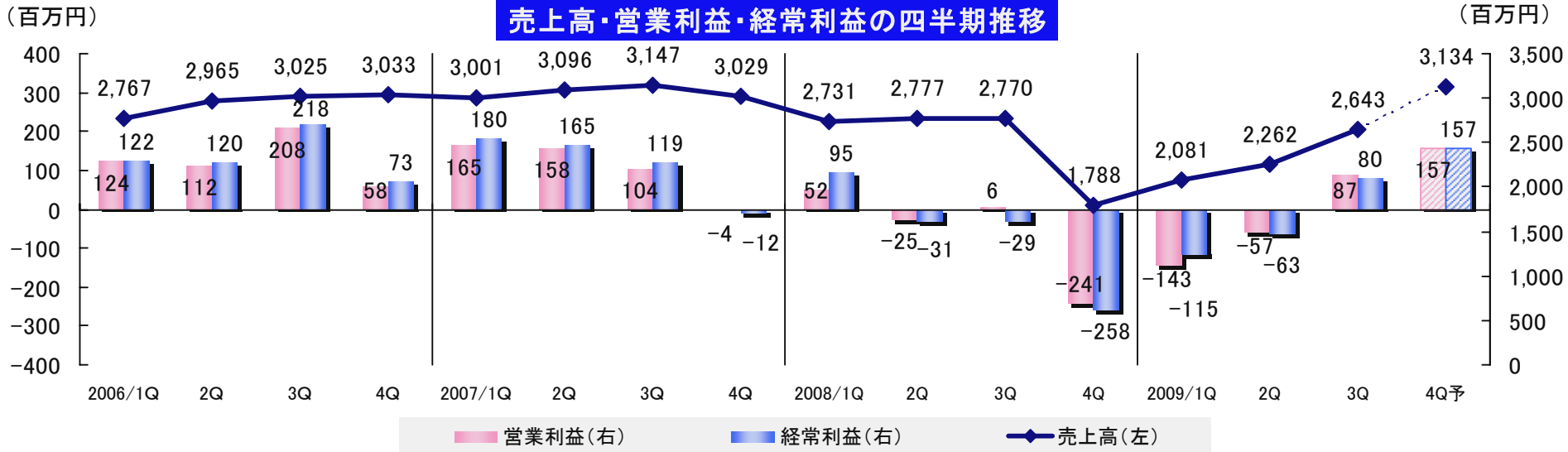
1. 景気復調の兆しは見えるものの、印刷需要の低迷、受注単価の低下等の影響により、引き続き受注環境は厳しい状況。また、得意先の海外への生産移管による国内売上の減少を受け、全体で約15%の減収。
2. タッチパネル関連製品の受注が好調で、前期ほぼゼロであった売上高が10億円弱と、大幅に増加した。
3. 一方で中国展開が加速。光華産業の売上高は2Q以降順調に拡大。中国をはじめとするアジア地域への移管に伴う受注ロスが徐々に減り、小規模案件に対する営業強化も一定の成果を挙げている。
4. 売上総利益率は、1～2Qにかけて中国(香港、深圳)の受注が低迷したことによる固定費負担、国内についても外注製品の構成比が上昇したことにより、0.9ポイント悪化した。

## 通期計画について

1. 4Qに関しては、外部環境に大きな改善はないと想定されるが、一層の営業強化とコストダウンを推進。
2. 生産能力を増強したタッチパネル関連製品の受注が好調なほか、中国展開が順調であるため、期初計画を変更せず、営業・経常段階での黒字確保を目指す。



# 四半期業績推移



# 四半期貸借対照表



	09/3 第3四半期末	09/3 期末	10/3 第3四半期末
流動資産	(8, 081)	(6, 777)	(7, 287)
現金及び預金	3, 412	2, 986	2, 384
売上債権	3, 499	2, 763	3, 630
棚卸資産	888	751	1, 054
その他流動資産	282	277	219
固定資産	(5, 985)	(5, 193)	(4, 899)
資産合計	(14, 067)	(11, 970)	(12, 186)
流動負債	(2, 532)	(2, 022)	(2, 474)
買入債務	1, 940	1, 581	2, 112
その他流動負債	592	441	362
固定負債	(359)	(362)	(314)
退職給付引当金	180	182	183
その他固定負債	179	180	131
負債合計	(2, 892)	(2, 384)	(2, 788)
株主資本	(11, 143)	(9, 785)	(9, 604)
評価・換算差額等	(▲248)	(▲435)	(▲439)
少数株主持分	(279)	(236)	(233)
純資産合計	(11, 175)	(9, 586)	(9, 398)
負債純資産合計	(14, 067)	(11, 970)	(12, 186)

単位:百万円

# 今後の展開



## 顧客動向と当社への影響と対応

### 長期トレンド

- ① 製品ライフサイクルの短期化・低価格化
- ② 高級機種・高付加価値品も部材の海外現地調達の動き(デジカメ・カーナビ・液晶TV・・・)



- 燦光電子の増強など、中国での生産能力拡大を図るとともに、現地営業力の強化にも注力。
- 国内においては、コストダウンとともに、外注先を弾力的に活用し、製品の短サイクル化に対応。

### 最近の動き

- ① 大手家電や自動車メーカーの減産は収束したものの、海外シフトが顕著
- ② 携帯電話は大手メーカー撤退の影響が一巡。iPhone式携帯の普及等により、タッチパネル関連製品が当面は収益拡大の柱に。



- 拡大するタッチパネル関連製品の需要に対応し、国内・中国の生産能力を確保する。
- 一方で長期的見地に立って、市場規模やコストに合わせ全社的に生産体制を見直す。

# タッチパネル関連ビジネスの拡大



## 携帯電話市場

- iPhone式携帯電話向けのタッチパネル外装部品が好調。1月に生産能力を増強し、2月より月150万台の生産体制に。
- 顧客2社に向けて当初よりフル稼働。今期売上高12億円→来期は20億円を見込む。

## デジタルカメラ市場

- 大手メーカー向けに、中国の外注工場での09年6月より量産を開始。売上高は今期予想4億円→来期予想6～8億円。
- 現状、抵抗膜式の製品を主に扱っているが、静電式の需要が高まりつつあり、営業活動を展開している。

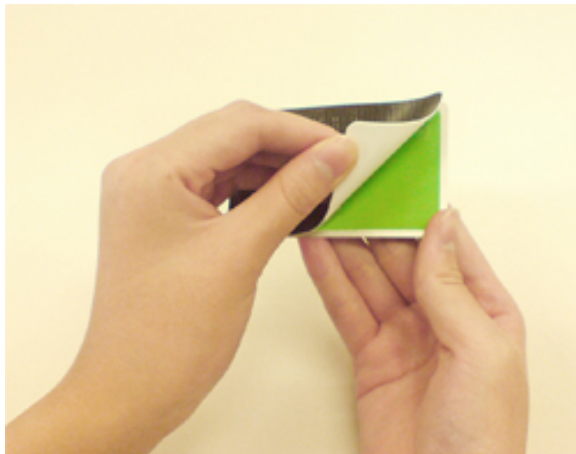


# 新市場の開拓



- 高付加価値を持った商品の投入により、アミューズメント・玩具景品等オリジナル商品の拡販を図る。非接触ICカード用の「きせかえシート」がバラエティグッズとして好調。
- 現在、医療分野についても専門商社を通じた営業活動に注力しているものの、成果が出るまで時間を要す見込み。

(オリジナル製品例) きせかえシート

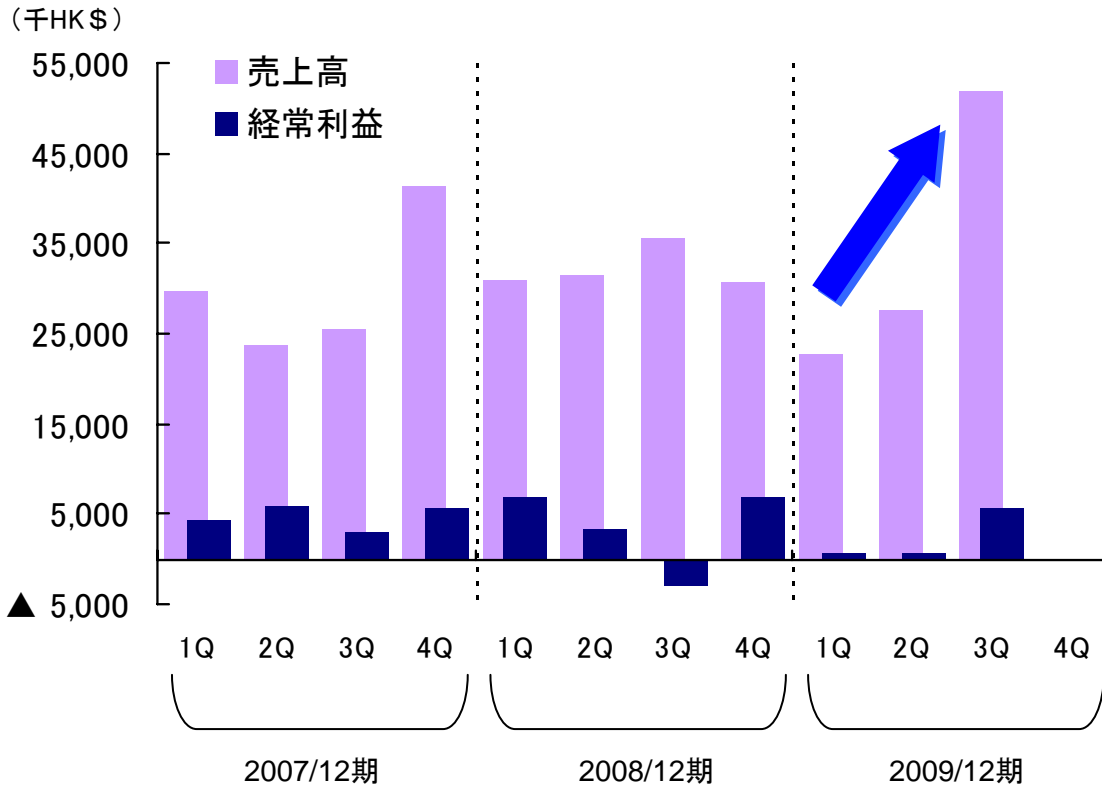


某イベントでの  
きせかえシート  
の販売場面

# 中国展開の加速

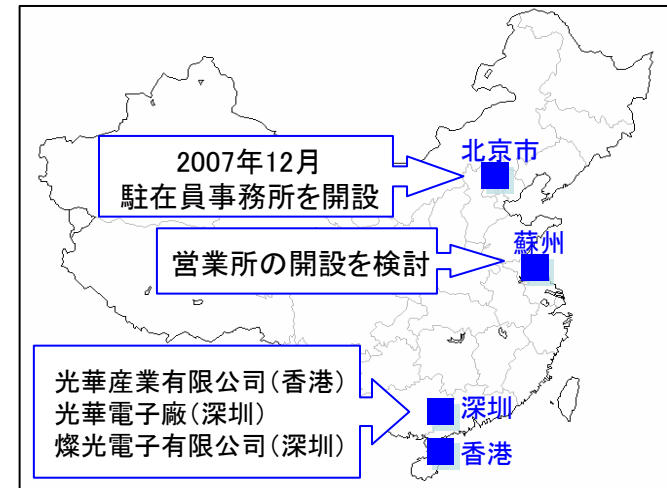


【光華産業 四半期売上高・経常利益の推移】



※12月決算。2007/12期3Q以降は燦光電子を連結

【中国拠点】

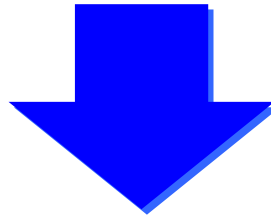


# 中国展開の今後の施策



## 現状

- 2009年前半は大手家電セットメーカーの生産は底入れ。また、携帯電話用アクリル窓の増産により2009/12月期1Qを底に2Q→3Qと売上は拡大。
- 課題として取り組んだ小規模案件に対する営業強化も一定の成果。



## 今後の重点施策

- デジカメ向け等タッチパネル関連製品の受注が好調。今後現地への生産移管も視野に自社での生産能力を増強。
- 営業活動の拠点として、蘇州にできるだけ早い時期に営業所の開設を検討。日系企業(家電・電子部品・自動車)にターゲットを絞り、積極的な受注活動を展開。
- 国内営業部門との連携強化。



# 中期数値目標



2012/3期に向け…

売上高  
営業利益率

年率3%成長  
5%以上

に再チャレンジ！！

# 株主還元について



- 期末配当については、期初発表通り、一株あたり13円(前期は7円)を予定しております。
- 値付率の改善を目的として、2009年9月1日より、売買単位を1000株から100株に変更しました。  
→さらに流動性の改善に取り組みます。
- 2008年12月25日に267,000株、2009年3月18日に840,000株、12月18日に60,000株の自己株式を取得。  
→当面は金庫株として保有し、今後、事業展開に応じて、企業価値を高められるよう機動的に活用いたします。

本資料に掲載されている三光産業株式会社の現在の計画、見通し、戦略、確信等のうち、歴史的事実でないものは、将来の業績に関する見通しであり、リスクや不確実な要因を含んでおります。

これらの情報は、現在入手可能な情報から三光産業株式会社の経営者の判断に基づいて作成されております。

実際の業績は、さまざまな重要な要素により、業績見通しとは大きく異なる結果となりうるため、業績見通しのみで全面的に依拠することは控えるようお願い致します。

また、本資料は、投資勧誘を目的としたものではありません。投資に関する決定は、利用者ご自身のご判断において行われるようお願い申し上げます。

## IRお問合せ

執行役員経理部長

高橋 光弘

TEL: 03-3403-8134

E-mail: m-takahashi@sankosangyo.co.jp